

〈研究ノート〉

学修および就職活動における 情報探索法指導の効果

— 企業情報探索を対象として —

柳 橋 望・松 木 靖

1. 目的

本研究の目的は、図書館利用教育の一環として行っている、情報探索法指導の効果を調査し、図書館利用教育および図書館利用教育と講義・ゼミナールとの連携の改善点を探ることにある。本研究は次の2つの意義を持つ。

1点目は、学生の視点から、情報探索法指導の効果を確認することである。現在、議論されているわが国高等教育の将来像においては、学生の視点からの教育の質の保証と可視化、そのためのPDCAの確立が強調されている。後者のPDCAについては、事後検証と検証に基づく改善が導入されてきた。具体的には、大学内における自己点検・評価、学生による授業評価、さらに第三者機関の認証制度である。前者の学生視点での教育の質の保証とは、「何を教えたか」から「何を学び、何を身に付けることができたのか」への転換^{註1)}とされる。

この視点に立てば、図書館利用教育の実施内容と受講学生数の集計という、これまでの点検・評価は、教える側からの「何を教えたか」にと

表1 図書館が実施・提供している図書館利用教育

		図書館オリエンテーション	図書館ツアー	図書館情報探索講座
対 象		1年次生	1年次生	2年次生
実施時期		入学時ガイダンス	前期	前期・後期の一定期間内
受講単位		学科	基礎ゼミナール	専門ゼミナール
目 的		図書館で何ができるのか、どんな場所なのか興味を持ってもらうための意識づけ	図書館の利用方法を実際に体験することでその後の図書館活用を促し、OPACを利用して必要な資料を入手できるようにする	卒業研究に必要な文献の探索方法を身につけてもらう
内 容	図書館の利用方法	①「図書館の達人」視聴 ②スライドによる図書館紹介	① OPAC 検索のポイント ②図書館施設・設備の紹介	①本学の蔵書を探す方法
	情報検索ツールの利用方法		③新聞記事データベースの紹介	②関連図書を広く探す方法 ③論文の探し方と文献の入手方法 ④新聞記事の調べ方 ⑤統計情報の調べ方
	その他	③図書館ボランティア活動紹介		
実施回数		1回	1回	希望に応じて1~2回
受講率 (註)	2018年度	-	93%	48%
	2017年度	-	92%	42%
備 考		※「高校時代の図書館利用についてのアンケート」実施		

註. 図書館情報探索講座の受講率は実受講学生数の在学2年次学生数に占める割合。

どまるものである。図書館利用教育の内容を、学生が長期的記憶として知識化し、実際に活用できているかという学生視点からの教育効果の確認が求められる。

2点目は、現在行っている図書館利用統計では捉えられない、図書館利用教育の効果を把握することである。図書館の利用統計は月別・年度の教職員・学生別の入館者数、貸出冊数の全体数と、それを基にした一日あたりの入館者数、一人あたり貸出冊数などの指標で示される。表1に本学の図書館利用教育の実施内容を示した。施設案内、利用案内、蔵書検索(OPAC)の利用方法といった、本学図書館の直接利用に関わる

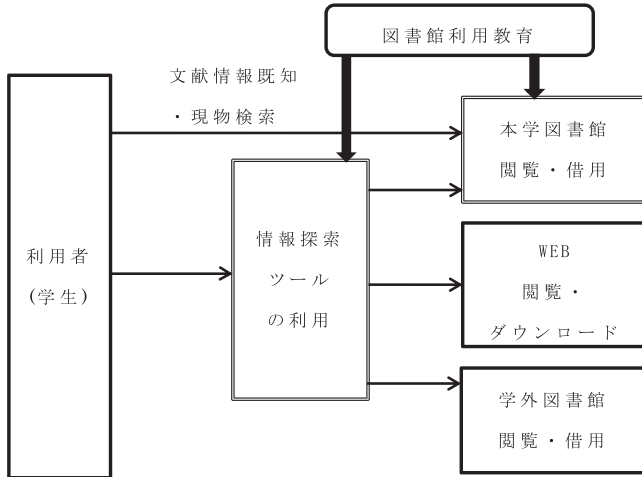


図1 文献情報探索と図書館利用の関係

利用教育の成果は、図書館利用統計で把握される。

しかし、情報探索法指導の効果は図書館利用統計では捉えられない。図1は文献情報探索と図書館利用の関係を、モデル化したものである。本学図書館の利用者には、情報探索ツールを使って文献情報探索をした結果利用する者だけでなく、参考文献目録や講義での紹介などで文献情報を知っている者、図書館で直接文献を閲覧する者が含まれる。そのため、図書館の利用状況から情報探索ツールの利用を推し測ることはできない。また、情報探索ツールの使用は、本学図書館の利用に一義的には結びつかない。検索した文献資料がWEBで閲覧または入手可能な場合や、公共図書館などの学外の図書館の利用につながる場合もある。

情報探索ツールに関する利用教育の効果を把握するには、受講者の認知度と利用実態を把握する仕組みが必要である。本研究は、その方法を検討するという意義を持っている。

2. 調査の設計

2.1 調査対象と選定理由

調査対象は経済学科付設の企業研究プログラム内の「企業実習Ⅰ」で、科目担当者と図書館が連携して実施した企業情報探索教育とした。同科目では学生が実習企業を選定するための情報収集、ならびに提出を義務づけている実習企業のレポート作成のために、企業情報の収集に関する講義を行っている。2015年度までは科目担当者のみで実施していたが、学生が情報探索の具体的方法を充分理解できていなかった。そこで、2016年度から図書館に要請して、科目担当者が企業研究レポートの内容に沿って、必要な企業情報と情報源を解説した後、図書館司書から図書館および図書館ウェブサイトの機能を利用した情報探索法の詳細を説明している。学生に紹介している企業情報の情報源および情報探索ツールは、業界研究書、業界地図、雑誌記事検索「MAGAZINEPLUS」、新聞記事検索データベース（朝日新聞・北海道新聞）、業界団体ホームページの5種類である。同科目の企業情報探索を対象とした理由は以下のとおりである。

本調査では、「何を学び、何が身についたか」という視点から、図書館利用教育受講者の受講後の認知度とともに、利用度も調べることを意図している。情報探索ツールの汎用性に着目すると、利用度を複数の目的での利用実態として調査できる方が良いと考えた。この点で、企業情報は学修以外に就職活動でも必須な情報であり、利用教育で修得した知識の応用的利用をも測れる。

さらに、同科目の受講生に課している企業研究レポートは結果として、受講した企業情報探索法についての演習課題となっている点に着目した。企業情報の情報源および探索法の紹介は、図書館利用教育と就職対策講座でも行われている。表2に調査対象とする企業実習Ⅰでの指導内容と、図書館利用教育、就職対策講座での指導・紹介内容を示した。図

表 2 企業情報検索の指導・紹介

	企業実習 I	図書館利用教育	就職対策講座
業界研究書（本）	○		○
業界地図	○		○
雑誌記事検索「MAGAZINEPLUS」	○	○ ^(註)	
新聞記事検索データベース	○	○	
業界団体のホームページ	○		

註. 担当教員の要望があったゼミナールに対して実施。

書館利用教育の受講率は前掲表 1 に示したとおりであり、企業研究の情報源を紹介した就職対策講座の受講率は 87.2% であった。表 2 をみると、「企業実習 I」だけが取り上げているのは業界団体のホームページのみで、他の 4 つの情報源、情報探索ツールは図書館利用教育、就職対策講座で取り上げられている。したがって、対照区となる調査対象集団を設定することによって、受講後の演習が知識としての定着および利用に与える影響を確認できる。

2.2 調査の設計と実施

前述のように、経済学科 2 年生の企業研究プログラム（企業実習 I）履修者を調査区とし、対照区として教養学科 2 年生を調査対象者とした。調査はアンケート方式とした。

調査票（文章末の資料 1 参照）では企業実習 I で指導した 5 つの情報源と情報探索ツールについての認知と利用について回答を求めた。利用については、学修での利用と就職活動での利用に分けている。学修での利用では経済学科学生に対しては、企業研究レポートの作成経験を除外するために「授業（企業実習 I を除く）に関連して利用した」とし、教養学科学生に対しては「授業に関連して利用した」とした。

回答者の属性については、就職活動での企業研究の状況、履歴書・エントリーシートの作成・提出状況、付設課程・付設プログラムの履修状

況、図書館利用教育の受講状況を尋ねた。

経済学科は学科必修科目「北海道の経済」受講者を対象に、教養学科は「企業と経営」の受講者を対象にして、2018年5月に実施した。柳橋が2018年8月29～30日に開催された、私立短期大学図書館協議会全国研修会において行った本学図書館の事例報告^{生註2)}に調査結果を用いるために、この時期の実施とした。

回答者数は経済学科58名、教養学科118名であった。経済学科の回答者には、企業研究プログラムを履修していない者も含まれる。1次集計結果は文章末の資料2の通りである。

3. 調査結果

3.1 情報源および情報探索ツールの認知

企業情報の情報源および情報探索ツールを認知している割合を、学科別、付設課程・付設プログラム（以下「付設」とする）履修別に示したものが表3である。表3から読み取れることは以下の点である。

- ① 情報源・情報探索ツール別に、認知度（「知っている」と回答した割合）をみると、認知度が高いのは新聞記事検索（84.0%）で、他の4種の認知度は5割を切り、中でも業界地図（31.4%）、業界団体ホームページ（22.9%）の認知度が低い。
- ② 学科別・付設別にみると、新聞記事検索については学科を問わず高い認知度となっている。この結果は、受講率が高い1年次対象の図書館ツアーでの紹介の効果と解釈できる。ただし、学科内では付設別の認知度差がみられ、経済学科では企業研究プログラム履修者、教養学科では図書館司書課程の認知度が高い。
- ③ 新聞記事検索以外の4つについては、経済学科内では企業研究プログラム履修者の認知度が非履修者より格段に高い。教養学科では図書館司書課程の雑誌記事検索の認知度が他の2グループより際

表3 企業情報の情報源・検索ツールの認知度

	教養学科				経済学科			総計
	履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
業界研究書	15.2%	33.3%	22.8%	22.9%	93.6%	30.0%	82.5%	42.3%
業界地図	12.1%	3.7%	8.8%	8.5%	95.7%	0.0%	78.9%	31.4%
雑誌検索「MAGAZINEPLUS」	12.1%	77.8%	12.3%	27.1%	91.5%	50.0%	84.2%	45.7%
新聞記事検索データベース	72.7%	92.6%	71.9%	77.1%	100.0%	90.0%	98.2%	84.0%
業界団体のホームページ	9.1%	11.1%	10.5%	10.2%	57.4%	10.0%	49.1%	22.9%

出所：北海道武蔵女子短期大学附属図書館「企業情報検索に関するアンケート」(2018)
 註. 各情報源・情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、「利用したことがない」と回答した者を除いた割合である。

立って高い^{註3)}。

- ④ 就職対策講座で紹介されている業界研究書、業界地図に着目すると、企業研究プログラム履修者の認知度の高さが歴然としている。これは、演習によって知識としての定着が促進される、という仮説を裏付けるものである。

3.2 情報源および情報探索ツールの利用

3.2.1 情報源および情報探索ツールの利用者割合

次に、企業情報の情報源および情報探索ツールの利用について、調査結果をみていく。利用については、情報源および情報探索ツールを「知っている」と回答した者に、「利用したことがない」「授業に関連して利用した」「就職活動で利用した」のそれぞれに該当するかを尋ねた。ここでは、「知っている」者のうち「利用した」者の割合を利用者割合と定義する。

表4の「知っていて利用したことがある割合」は、各情報源・情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、「利用したことがない」と回答した者を除いた回答者の割合で、授業または就職活動のいずれか、または両方で利用したことがある者の割合を意味する。

表4 知っていて利用したことがある割合

	教養学科				経済学科			総計
	履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
業界研究書（本）	40.0%	11.1%	23.1%	22.2%	38.6%	33.3%	38.3%	32.4%
業界地図	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	42.2%	100.0%	42.2%	36.4%
雑誌記事検索「MAGAZINEPLUS」	75.0%	71.4%	57.1%	68.8%	58.1%	0.0%	52.1%	58.8%
新聞記事検索データベース	70.8%	88.0%	65.9%	73.6%	66.0%	33.3%	60.7%	68.7%
業界団体のホームページ	33.3%	100.0%	66.7%	66.7%	51.9%	0.0%	50.0%	55.0%

出所：北海道武蔵女子短期大学附属図書館「企業情報検索に関するアンケート」（2018）

註1. 各情報源・情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、「利用したことがない」と回答した者を除いた割合。

2. 教養学科で付設課程履修状況が不明なサンプルは表示していない。

表4で確認できるのは、以下の点である。

- ① 利用者割合は一様ではない。雑誌記事検索、新聞記事検索、業界団体ホームページは5～6割程度が利用しているが、業界研究書、業界地図の利用は1～2割程度にとどまる。
- ② 学科別にみると、利用者の割合が高い雑誌記事検索・新聞記事検索・業界団体ホームページについては、学科間に明瞭な差は確認できない。業界研究書、業界地図に関しては、経済学科で利用者の割合が高い。
- ③ 付設別にみると、経済学科では企業研究プログラム履修者の方が利用者の割合が高い。教養学科では、付設の履修と利用者の割合に関連性は確認できない。

3.2.2 学修における利用

学修における利用については表5に示した。表5から確認できるのは以下の点である。

- ① 学修においても、利用者の割合は一様ではない。利用者の割合が高いのは雑誌記事検索、新聞記事検索の2つで、全体では利用者の

表5 「授業に関連して利用した」と回答した割合

	教養学科				経済学科			総計
	履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
業界研究書（本）	0.0%	0.0%	7.7%	3.7%	20.5%	0.0%	19.1%	13.5%
業界地図	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	0.0%	26.7%	21.8%
雑誌記事検索「MAGAZINEPLUS」	75.0%	71.4%	42.9%	65.6%	44.2%	0.0%	39.6%	50.0%
新聞記事検索データベース	62.5%	80.0%	61.0%	65.9%	44.7%	22.2%	41.1%	56.5%
業界団体のホームページ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	14.3%	10.0%

出所：北海道武蔵女子短期大学附属図書館「企業情報検索に関するアンケート」(2018)

註1. 各情報源・情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、該当すると回答した者の割合である。

2. 教養学科で付設課程履修状況が不明なサンプルは表示していない。

割合が高い業界団体ホームページは、業界研究書、業界地図とともに、利用者の割合が低い。

- ② 学科別にみると、雑誌記事検索、新聞記事検索は教養学科の方が利用者の割合が高い。業界研究書、業界地図、業界団体ホームページは教養学科では利用者がほとんどいないが、経済学科では2割前後の利用者が存在する。
- ③ 付設別にみると、経済学科では企業研究プログラム履修者の利用者割合が高い。企業研究プログラム履修者の中に、他の科目等の学修に企業情報探索の知識を応用している者がいることが確認できる。
- ④ 教養学科では、雑誌記事検索では付設履修なしと図書館司書課程、新聞記事検索では図書館司書課程の利用者が多い。この結果には、付設課程および付設課程履修に付随する履修科目選択による、学修内容の違いが影響している可能性がある。

3.2.3 就職活動における利用

就職活動における利用者の割合は表6である。表6からは以下の点が

表6 「就職活動で利用した」と回答した割合

	教養学科				経済学科			総計
	履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
業界研究書（本）	20.0%	11.1%	15.4%	14.8%	15.9%	0.0%	14.9%	14.9%
業界地図	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	13.3%	0.0%	13.3%	12.7%
雑誌記事検索「MAGAZINEPLUS」	0.0%	4.8%	14.3%	6.3%	11.6%	0.0%	10.4%	8.8%
新聞記事検索データベース	8.3%	12.0%	4.9%	7.7%	19.1%	11.1%	17.9%	11.6%
業界団体のホームページ	33.3%	100.0%	66.7%	66.7%	37.0%	0.0%	35.7%	45.0%

出所：北海道武蔵女子短期大学附属図書館「企業情報検索に関するアンケート」（2018）

註1. 各情報源・情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、該当すると回答した者の割合である。

2. 教養学科で付設課程履修状況が不明なサンプルは表示していない。

確認できる。

- ① 就職活動での利用は、業界団体のホームページを除き、1割前後にとどまる。就職活動参考書の業界研究書および業界地図がほとんど活用されていない。表3で業界団体ホームページは最も認知度が低かったが、知っている学生の中では活用されている。この結果には情報利用環境の差が影響している可能性がある。業界団体ホームページはスマートホン等の携帯機器、自宅のパソコン等で閲覧できる。他の4つは大学の資料室での閲覧、学内または図書館内の端末からの検索と、利用には時間、場所の制限がある。そのため、利用制限のない業界団体ホームページの利用割合が高い可能性がある。
- ② 学科別・付設別に、情報源・情報探索ツールの利用をみると、経済学科企業研究プログラムの履修者では、5つそれぞれに割合は低い利用が確認できる。教養学科の3つのグループは、利用がみられる情報源・情報探索ツールに偏りがみられる。
- ③ 表5と比較すると、学修での利用者の多さが就職活動での利用には結びついてはいないとみられる。この点は表7で確認できる。

表7 学修での利用と就職活動での利用の関係

(単位：人)

		新聞記事検索			雑誌検索		
		授業に関連した利用			授業に関連した利用		
		なし	あり	総計	なし	あり	総計
就職活動での利用	なし	50	80	130	34	39	73
	あり	14	3	17	6	1	7
	総計	64	83	147	40	40	80

出所：北海道武蔵女子短期大学附属図書館「企業情報検索に関するアンケート」(2018)
 註：情報探索ツールを知っていると回答した者のうち、該当すると回答した人数である。

4. 考察

調査結果から明らかになった、企業情報探索教育の効果と図書館利用教育の事後検証の課題・留意点は以下のとおりである。

4.1 企業情報探索教育の効果

- ① 利用教育後の演習は、知識としての定着に有効であると考えられる。経済学科企業研究プログラムで実施した、企業情報探索法指導と企業研究レポート作成という演習の連動は、同プログラム履修者の認知割合の高さに結びついている。学修に関する利用においても、同プログラム履修者には各情報源・情報探索ツールについて、一定の利用が確認できた。
- ② 雑誌記事検索・新聞記事検索は教養学科でも認知度が高く、学修における利用者も多かった。このことは、図書館利用教育で教授された利用法の知識としての定着し利用されることと、授業における実際の利用が関連していることをうかがわせる。ただし、教養学科のどの科目でどのように利用されているかが不明なため、両者の因果関係は明瞭ではない。具体的には、学生が自ら図書館利用教育で修得した情報探索知識を学修に活用したのか、教員から雑誌記事・

新聞記事検索の指示または示唆があったのかの違いである。

- ③ 企業研究プログラムでは、企業情報探索は就職活動にも使えるリテラシーとして教えているが、同プログラム履修者を含めて、就職活動における利用者は少ない。企業情報探索が学修だけでなく、就職活動にも利用できる汎用性あるリテラシーとは認識されおらず、学修における利用者と就職活動における利用者は分かれている。
- ④ スマートホンや自宅のパソコンなどで利用できる、業界ホームページの認知度は低かったが、認知者のうちの利用者の割合は高かった。実際の利用には利用環境が影響すると考えられる。利用環境の整備によって、情報探索ツールは利用者が増える可能性がある。

4.2 図書館利用教育改善への示唆

- ① 授業との連携を積極的に進めることが、図書館利用教育の効果を高めるために有効であろう。現在は、科目担当教員からの要請によってプログラムを設計して実施している図書館利用教育はわずかである。その中の企業研究プログラムの企業実習Ⅰでは、認知度で高い効果が、利用においても一定の効果が確認できた。また、教養学科では情報探索ツールの利用には、授業での学修内容が関連していることが示唆された。授業でどのような情報探索を必要とするかを調べ、図書館から支援を提案することが効果的であろう。特に、図書館員との交流が少ない非常勤講師に有効と考えられる。
- ② また、就職活動支援との連携も検討課題である。業界研究書、業界地図は就職対策講座で紹介されているものの、企業研究プログラム履修者以外の認知度は低かった。この改善に向けて、図書館としてもどのような取り組みができるかを検討し、就職支援組織（就職委員会、就職課）と連携することは、学生へのサービス向上という

点で重要と考える。

- ③ 利用環境を考慮する必要がある。一般公開されている利用環境の制限の小さい情報探索ツール、たとえば情報探索講座で紹介している CiNii Books や CiNii Articles は、利用環境を強調して教えることで、利用が増える可能性がある。この点に関しては、利用ニーズの多い情報探索ツールの利用制限が大きいのであれば、利用環境の見直し、整備も必要になろう。

4.3 図書館利用教育の事後評価への示唆

- ① 利用者視点での事後評価の恒常的実施が必要であろう。これまでの図書館利用統計に依拠する事後評価は、教える側からの視点に止まる。今回の学生が実際に学べたか、利用できているかという視点からの事後評価では、「教えた」という事実と知識としての定着およびその活用はかい離している実態が把握された。こうした把握が図書館利用教育の改善に有効であろう。
- ② 現在実施している図書館ツアー、図書館情報探索講座の事後評価を行う場合には、実施時期は各学年末とするのが望ましい。今回は5月に調査を実施したために、二つの利用教育の効果を峻別する調査とならなかった。各学年末の実施とすることで、利用教育ごとの効果が明らかになる。
- ③ 学修における利用については、単に利用したかを尋ねるだけでは不十分であることがわかった。教員の指示・示唆に基づく利用なのか、自己の判断による利用なのかを分けてとらえる必要がある。
- ④ 学生だけでなく、教員に対する調査も実施すべきである。非常勤講師も含めて、図書館が実施している利用教育の内容が周知されているか、授業で活用されているか、さらには利用教育への要望を把握することが授業との連携を進める上で必要となろう。

付記 本研究は私立短期大学図書館協議会全国研修会での柳橋の報告^{註2)}をきっかけとして、柳橋と松木が実施した調査をとりまとめたものである。柳橋の問題意識を受けて、松木が調査を設計した。調査結果の分析および考察は共同で行った。

註

- 註1) 中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申（案）」中央教育審議会大学分科会・将来構想部会合同会議資料、2018年9月26日
- 註2) 報告タイトルは「図書館のイメージアップ戦略から利用教育の取り組みまで」で、報告内容は、私立短期大学図書館協議会『短期大学図書館研究』38号（2019年3月発行）に収録。
- 註3) この結果は、図書館司書課程において、雑誌記事検索の使い方が教授されていることと関連していると思われる。

資料 1

企業情報検索に関するアンケート

図書館

このアンケートは授業や就職活動に関連して必要となる企業情報の検索に関して、どのような情報を提供することが、学生の皆さんに有益なのかを知るために行うものです。ご協力をお願いします。
回答にあたっては、設問の該当する数字に○をつけてください。

設問 1 「業界研究書（本）」を知っていますか。

1. 知っている（→設問 2 へ） 2. 知らない（→設問 3 へ）

設問 2 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお訊きします。実際に利用したことがありますか。（該当するもの全てに○をつけてください）

1. 利用したことがない
2. 授業（企業実習Ⅰを除く）に関連して利用した
3. 就職活動で利用した

設問 3 「業界地図」を知っていますか。

1. 知っている（→設問 4 へ） 2. 知らない（→設問 5 へ）

設問 4 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお訊きします。実際に利用したことがありますか。（該当するもの全てに○をつけてください）

1. 利用したことがない
2. 授業（企業実習Ⅰを除く）に関連して利用した
3. 就職活動で利用した

設問 5 雑誌検索「MAGAZINEPLUS」を知っていますか。

1. 知っている（→設問 6 へ） 2. 知らない（→設問 7 へ）

設問 6 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお訊きします。実際に利用したことがありますか。（該当するもの全てに○をつけてください）

1. 利用したことがない
2. 授業（企業実習Ⅰを除く）に関連して利用した
3. 就職活動で利用した

設問 7 新聞記事検索データベース（朝日新聞・北海道新聞）を知っていますか。

1. 知っている（→設問 8 へ） 2. 知らない（→設問 9 へ）

設問8 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお訊きします。実際に利用したことがありますか。(該当するもの全てに○をつけてください)

1. 利用したことがない
2. 授業(企業実習Ⅰを除く)に関連して利用した
3. 就職活動で利用した

設問9 業界団体のホームページを知っていますか。

1. 知っている(→設問10へ)
2. 知らない(→設問11へ)

設問10 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお訊きします。実際に利用したことがありますか。(該当するもの全てに○をつけてください)

1. 利用したことがない
2. 授業(企業実習Ⅰを除く)に関連して利用した
3. 就職活動で利用した

設問11 これまでに、就職活動のために企業研究をしたことがありますか。

1. したことがある
2. したことがない

設問12 これまでに、履歴書・エントリーシートを作成・提出したことがありますか。

1. 志望企業に提出したことがある
2. 作成中または作成したことがあるが、提出したことはない。
3. 作成したことはない

設問13 1年次に「企業実習Ⅰ」を履修しましたか

1. 履修した
2. 履修しなかった

設問14 あなたは図書館で行われた、基礎ゼミナールでの図書館ツアー、または専門ゼミナールでの情報探索講座を受講したことがありますか。

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございます。

学修および就職活動における情報探索法指導の効果

資料2 「企業情報検索に関するアンケート」集計結果

実施時期 2018年5月

対象者 教養学科「企業と経営」受講生 118名 経済学科「北海道の経済」受講生 58名
※無効票1票を集計から除く

設問1 「業界研究書(本)」を知っていますか。(N=175)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	知っている	5	9	13	0	27	44	3	47	74
	知らない	28	18	44	1	91	3	7	10	101
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	知っている	15.2%	33.3%	22.8%	0.0%	22.9%	93.6%	30.0%	82.5%	42.3%
	知らない	84.8%	66.7%	77.2%	100.0%	77.1%	6.4%	70.0%	17.5%	57.7%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問2 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお聞きます。実際に利用したことがありますか。
(該当するものすべてに○をつけてください) (複数回答、N=74)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	実回答者数	5	9	13	0	27	44	3	47	74
	利用したことがない	3	8	10	0	21	27	2	29	50
	授業に関連して利用した	0	0	1	0	1	9	0	9	10
	就職活動で利用した	1	1	2	0	4	7	0	7	11
	利用したことがない	60.0%	88.9%	76.9%	0.0%	77.8%	61.4%	66.7%	61.7%	67.6%
構成比	授業に関連して利用した	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	3.7%	20.5%	0.0%	19.1%	13.5%
	就職活動で利用した	20.0%	11.1%	15.4%	0.0%	14.8%	15.9%	0.0%	14.9%	14.9%
	総計									

設問3 「業界地図」を知っていますか。(N=175)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	知っている	4	1	5		10	45		45	55
	知らない	29	26	51	1	107	2	10	12	119
	不明	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	知っている	12.1%	3.7%	8.8%	0.0%	8.5%	95.7%	0.0%	78.9%	31.4%
	知らない	87.9%	96.3%	89.5%	100.0%	90.7%	4.3%	100.0%	21.1%	68.0%
	不明	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問4 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお聞きます。実際に利用したことがありますか。
(該当するものすべてに○をつけてください) (複数回答、N=55)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	実回答者数	4	1	5	0	10	45	0	45	55
	利用したことがない	4	1	4	0	9	26	0	26	35
	授業に関連して利用した	0	0	0	0	0	12	0	12	12
	就職活動で利用した	0	0	0	0	1	6	0	6	7
構成比	利用したことがない	100.0%	100.0%	80.0%	0.0%	90.0%	57.8%	0.0%	57.8%	63.6%
	授業に関連して利用した	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	0.0%	26.7%	21.8%
	就職活動で利用した	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	13.3%	0.0%	13.3%	12.7%

設問5 雑誌検索「MAGAZINEPLUS」を知っていますか。(N=175)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	知っている	4	21	7	0	32	43	5	48	80
	知らない	29	6	50	1	86	4	5	9	95
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	知っている	12.1%	77.8%	12.3%	0.0%	27.1%	91.5%	50.0%	84.2%	45.7%
	知らない	87.9%	22.2%	87.7%	100.0%	72.9%	8.5%	50.0%	15.8%	54.3%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問6 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお聞きします。実際に利用したことがありますか。
(該当するものすべてに○をつけてください) (複数回答、N=80)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	実回答者数	4	21	7		32	43	5	48	80
	利用したことがない	1	6	3	0	10	18	5	23	33
	授業に関連して利用した	3	15	3	0	21	19	0	19	40
	就職活動で利用した	0	1	1	0	2	5	0	5	7
	利用したことがない	25.0%	28.6%	42.9%	0.0%	31.3%	41.9%	100.0%	47.9%	41.3%
構成比	授業に関連して利用した	75.0%	71.4%	42.9%	0.0%	65.6%	44.2%	0.0%	39.6%	50.0%
	就職活動で利用した	0.0%	4.8%	14.3%	0.0%	6.3%	11.6%	0.0%	10.4%	8.8%

設問7 新聞記事検索データベース(朝日新聞・北海道新聞)を知っていますか。(N=175)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	知っている	24	25	41	1	91	47	9	56	147
	知らない	9	1	16	0	26	0	1	1	27
	不明	0	1	0	0	1	0	0	0	1
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
	知っている	72.7%	92.6%	71.9%	100.0%	77.1%	100.0%	90.0%	98.2%	84.0%
構成比	知らない	27.3%	3.7%	28.1%	0.0%	22.0%	0.0%	10.0%	1.8%	15.4%
	不明	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問8 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお聞きします。実際に利用したことがありますか。
(該当するものすべてに○をつけてください) (複数回答、N=147)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	実回答者数	24	25	41	1	91	47	9	56	147
	利用したことがない	7	3	14	0	24	16	6	22	46
	授業に関連して利用した	15	20	25	0	60	21	2	23	83
	就職活動で利用した	2	3	2	0	7	9	1	10	17
	利用したことがない	29.2%	12.0%	34.1%	0.0%	26.4%	34.0%	66.7%	39.3%	31.3%
構成比	授業に関連して利用した	62.5%	80.0%	61.0%	0.0%	65.9%	44.7%	22.2%	41.1%	56.5%
	就職活動で利用した	8.3%	12.0%	4.9%	0.0%	7.7%	19.1%	11.1%	17.9%	11.6%

設問9 業界団体のホームページを知っていますか。(N=175)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	知っている	3	3	6	0	12	27	1	28	40
	知らない	30	24	51	0	105	20	9	29	134
	不明	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
	知っている	9.1%	11.1%	10.5%	0.0%	10.2%	57.4%	10.0%	49.1%	22.9%
構成比	知らない	90.9%	88.9%	89.5%	0.0%	89.0%	42.6%	90.0%	50.9%	76.6%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問10 前設問で「1. 知っている」と回答した方にお聞きします。実際に利用したことがありますか。
(該当するものすべてに○をつけてください) (複数回答、N=40)

		教養学科				経済学科		総計		
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム		履修なし	計
実数	実回答者数	3	3	6	0	12	27	1	28	40
	利用したことがない	2	0	2	0	4	13	1	14	18
	授業に関連して利用した	0	0	0	0	0	4	0	4	4
	就職活動で利用した	1	3	4	0	8	10	0	10	18
	利用したことがない	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	48.1%	100.0%	50.0%	45.0%
構成比	授業に関連して利用した	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	14.3%	10.0%
	就職活動で利用した	33.3%	100.0%	66.7%	0.0%	66.7%	37.0%	0.0%	35.7%	45.0%

学修および就職活動における情報探索法指導の効果

設問11 これまでに、就職活動のために企業研究をしたことがありますか。(N=175)

		教養学科					経済学科			総計
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
実数	したことがある	24	25	57	0	106	42	7	49	155
	したことがない	9	2	0	0	11	5	3	8	19
	不明	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	したことがある	72.7%	92.6%	100.0%	0.0%	89.8%	89.4%	70.0%	86.0%	88.6%
	したことがない	27.3%	7.4%	0.0%	0.0%	9.3%	10.6%	30.0%	14.0%	10.9%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問12 これまでに、履歴書・エントリーシートを作成・提出したことがありますか。(N=175)

		教養学科					経済学科			総計
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
実数	提出したことがある	16	20	45	0	81	28	4	32	113
	作成中・または作成したことがあるが、提出したことはない	12	3	8	0	23	13	3	16	39
	作成したことはない	5	4	4	0	13	6	2	8	21
	不明	0	0	0	1	1		1	1	2
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	提出したことがある	48.5%	74.1%	78.9%	0.0%	68.6%	59.6%	40.0%	56.1%	64.6%
	作成中・または作成したことがあるが、提出したことはない	36.4%	11.1%	14.0%	0.0%	19.5%	27.7%	30.0%	28.1%	22.3%
	作成したことはない	15.2%	14.8%	7.0%	0.0%	11.0%	12.8%	20.0%	14.0%	12.0%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.8%	0.0%	10.0%	1.8%	1.1%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設問13 付設課程・付設プログラムの履修 (N=175)

		教養学科					経済学科			総計
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
実数		33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比		28.0%	22.9%	48.3%	0.8%	100.0%	82.5%	17.5%	100.0%	100.0%

設問14 あなたは図書館で行われた、基礎ゼミナールでの図書館ツアー、または専門ゼミナールでの情報探索講座を受講したことがありますか。

		教養学科					経済学科			総計
		履修なし	図書館 司書	ビジネス 教養	不明	計	企業研究 プログラム	履修なし	計	
実数	参加	27	27	50		104	47	10	57	161
	不参加	6		7		13	0	0	0	13
	不明				1	1	0	0	0	1
	総計	33	27	57	1	118	47	10	57	175
構成比	参加	81.8%	100.0%	87.7%	0.0%	88.1%	100.0%	100.0%	100.0%	92.0%
	不参加	18.2%	0.0%	12.3%	0.0%	11.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

